

MH SW ニュース

発行 岡山県精神保健福祉士協会・公益社団法人日本精神保健福祉士協会 岡山県支部事務局

〒700-0915 岡山市北区鹿田本町3-16 岡山県精神科医療センター 相談室内

TEL: 086-225-3821 / FAX: 086-234-2639

e-mail: ok_mhsw@yahoo.co.jp

巻頭言

コロナ禍、酷暑、各地での豪雨…。息苦しい夏が続きます。ウィズコロナ、新しい生活様式のもと、各自が最大限に感染対策に努めておられることと思います。そのような中でも、感染状況が落ち着かず、本務に集中できない方もおられるのではないのでしょうか。早く状況が落ち着くことを願うばかりです。

今号の盛り沢山の記事を拝見し、リモート中心で不自由の多い状況にもかかわらず、事業を進めてくださっている方々の存在を心強く感じています。県協会に積極的に御参画くださり本当にありがとうございます。ソーシャルワーカーデーのイベントも一段落、法人化ワーキングの報告会も無事終了、全体研修・基礎コース研修も本格始動…。課題がなくもないですが、着実に歩みを進めています。引き続き宜しくお願い致します。

さて、気が早い、と言われるかもしれませんが…。今年度で県協会の役員任期の1期2年が終わり、役員選挙の年度となります。県協会の発展に向け我こそは、と言われる方がおられることを期待しつつ筆をおきます。

日本が締結している障害者権利条約をめぐる国連の対日審査が8月23日に二日間の日程を終えました。精神科医療の強制入院など皆様の関心も高いことと思います。引き続き注目しましょう。日中暑い日が続きます。くれぐれも御自愛ください。

岡山県精神保健福祉士協会

会長 河合 宏

《ソーシャルワーカーデーのご報告》

8月11日に「ソーシャルワーカーデー 2022 in おかやま」を開催しました。

今年度も、岡山県社会福祉士会、岡山県医療ソーシャルワーカー協会、岡山県精神保健福祉士協会の3団体で実行委員を構成し開催いたしました。各団体より登壇者2名を選出し、「ソーシャルワーカーってなんだ!？」をテーマにZoomを用いてシンポジウムを行いました。対象者はソーシャルワーカー以外の他職種の方や、その学生を中心としました。

普段ソーシャルワーカーがどこでどんな活動をしているのかといったことや、仕事をする上での「醍醐味」等を発表していただきました。(次ページにつづく)

当日は、約50名の方にご参加いただきました。当会からは林道倫精神科神経科病院の大西展代さん、川崎医療福祉大学の松本優作先生にご登壇いただきました。大西さんから、ソーシャルワーカーの精神科病院内での役割や地域での活動について、松本先生からは、こども家庭庁の創設に伴い、保育分野での精神保健福祉士の必要性等をお話いただきました。ソーシャルワーカーについて、実践的で具体的な仕事内容が伝わったのではないかと思います。



当日、会員の皆様にはご参会いただけなかったのですが、現在 YouTube にて動画配信しておりますので、ご興味のある方は、ご覧いただけたらと思います。



ソーシャルワーカーデー 実行委員会 河田病院 田村恵里郁

《法人化「検討」ワーキング》

令和4年7月24日(日)に『県協会の今後を考える会』をオンライン形式で開催しました。前日に事務局のモバイル Wi-Fi が故障(バッテリー部分が膨張!!)するというハプニングがありましたが、皆様の協力により予定通りに事を進めることができました。これまでのワーキング内容の報告を行った後、3グループに分かれて意見交換を行いました。法的根拠を持たない任意団体であるが故のデメリット(財産管理の曖昧さ)の話から始まり、「積極的にソーシャルアクションを展開していく為には法人化は必要不可欠なのは?」「法人化すると会費はどうなるの?」「会員一人一人が法人化について我が事として考えてほしい」「事務局の大変さを初めて知りました」等々、さまざまな切り口で意見交換が行われ、私達の県協会について考える良い機会となりました。今回の意見を踏まえ、ワーキングチームとしては引き続き検討を行っていきます。

山陽病院 油谷圭介





《災害対策委員より》

The power of BISA!
備災の力！！

～あらためまして災害対策委員会です～

遡れば平成7年の阪神淡路大震災を契機に公益社団法人日本精神保健福祉士協会（以下、日本協会）で協議されてきた「災害支援ガイドライン」ですが、平成22年に初版が完成し全国の支部に配布された矢先に東日本大震災が起きました。また、平成30年6月30日に日本協会主催の「中国ブロック災害対策連絡会」が開催されて間無しの7月6日に西日本豪雨が発生し、当協会としてはボランティアへの会員派遣調整を中心に可能な限りの支援活動を行ってきました。

そして当協会の岡山県災害対策計画が総会で承認されたのが令和元年6月8日。その後は DWAT 研修への参加など知識の向上に取り組んでいます。

ちなみに南海トラフ地震を例に挙げると、向こう30年間に7割程度の確率で発生が予測されていたり、線状降水帯による急激な集中豪雨も全国で頻回に発生しています。

このような中、私たち精神保健福祉士が関わっている方々や、家族や自分自身も災害によってある日突然被災者になる事も考えられます。被害を最小限にするには「平常時にこそ災害時の事を考えておくこと（備災の意識）が大切」と言えます。今後も皆様からのご協力をよろしくお願いします。

今年度、寄田佳宏さんが新たにメンバーに加わってくださいました。

年々、各地での災害が深刻なものとなっていることを肌で感じています。

当時、真備災害の際には子どもの通っていた保育園が浸水し、お昼寝布団や保育備品等が水没しました。その際には様々な支援団体様より備品や玩具などの寄付をいただき、感謝の想いもあります。災害時の初期対応～復興後にできる支援を皆様と一緒に考えていけたらと思います。よろしくお願いいたします。

寄田佳宏

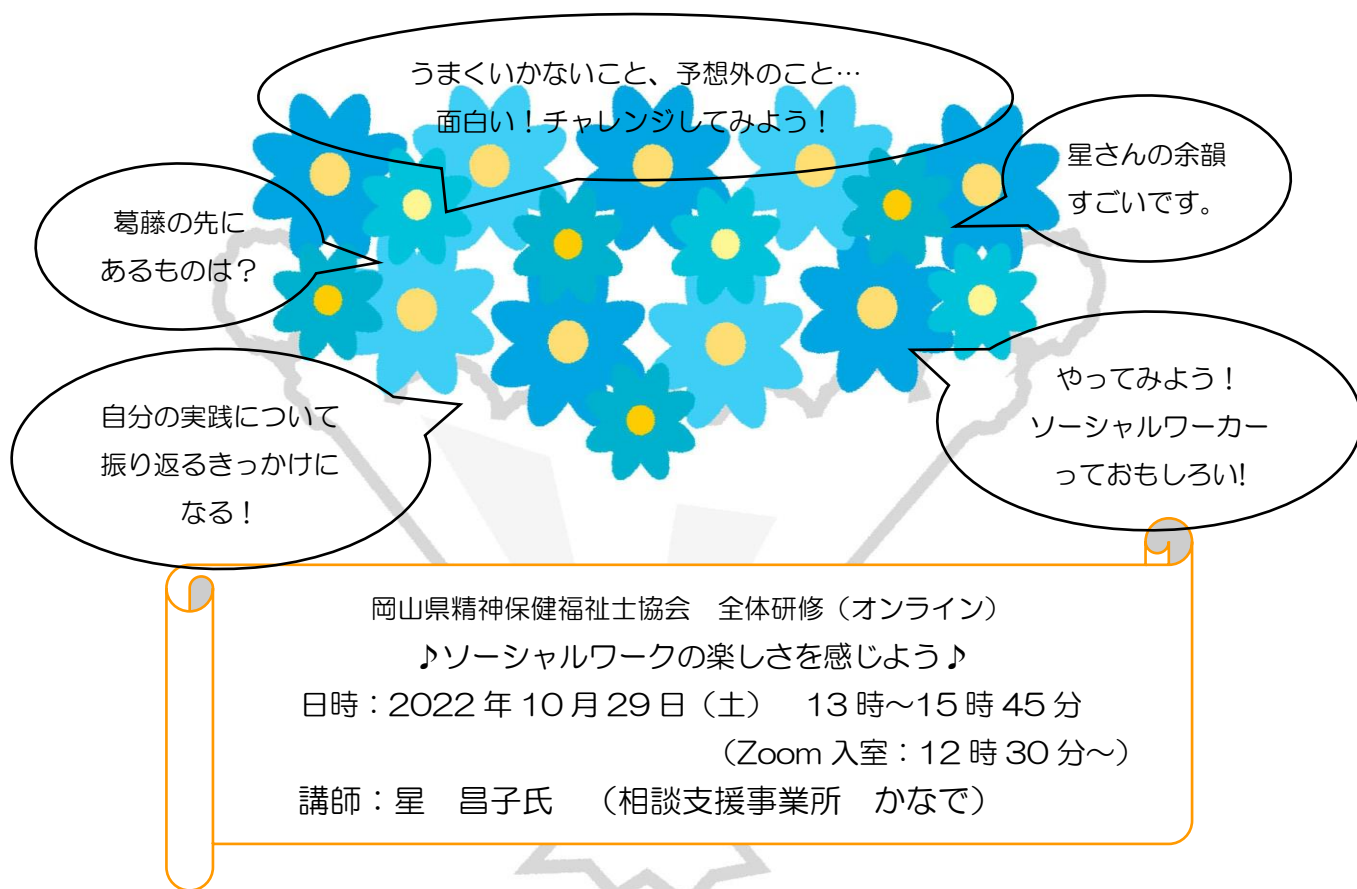
日本協会で(仮称)災害支援・復興支援委員会の委員長を務める河合会長をアドバイザーに現在5名の委員で活動しています。よろしくお願い致します。

水澤俊恵(NPO おかやま入居支援センター)
外山薫(倉敷仁風ホスピタル)
齊藤由美(川崎医療福祉大学)
寄田佳宏(倉敷西部地域生活支援センター)
矢木公久(向陽台病院)

災害対策委員会 委員長 矢木公久



《研修委員会より》



講師の星氏は、林道倫精神科神経科病院で長らくソーシャルワーカーとしての実践を積み重ねてこられ、また、川崎医療福祉大学でもソーシャルワーカーとして大切な視点や姿勢を伝え続けておられます。このたび林道倫精神科神経科病院を定年退職され、現在は新たな場所で様々なチャレンジをされながら走り続けておられます。

今回の全体研修では、星氏にソーシャルワーカーとしてのこれまでの実践の中で、大切にこられたこと、変わったこと、変わってはいけないこと、今後やっていきたいことなどをお話していただきます。その後、日々の実践の中で悩んだり、頑張ったりしていることをグループワークで伝えあい、ミニシンポジウム形式で全体共有します。

「明日からも頑張ろう！」とパワーになるような研修にしたいと思っています。みなさま、ぜひご参加ください。

【申し込み方法】

参加希望の方は、「氏名」「所属」「メールアドレス」「経験年数」をご明記の上、10月20日（木）までに、下記のメールアドレスにお申し込みください。

なお、1つのパソコンから複数人数で参加される場合にはその旨をお知らせください。

※申し込みのメールを受信後、数日以内に返信をします。もし返信がなければ、ご連絡ください。お申し込みの方には後日研修参加のURL等をメールでお伝えします。

【問い合わせ先】

川崎医療福祉大学 齊藤

TEL:086-462-1111(内線:55959) / e-mail:yumi-sao@mw.kawasaki-m.ac.jp

《座談会～つながるカフェ～の報告》

座談会～つながるカフェ～の第8回(6月24日)・第9回(7月29日)の報告が届きました。

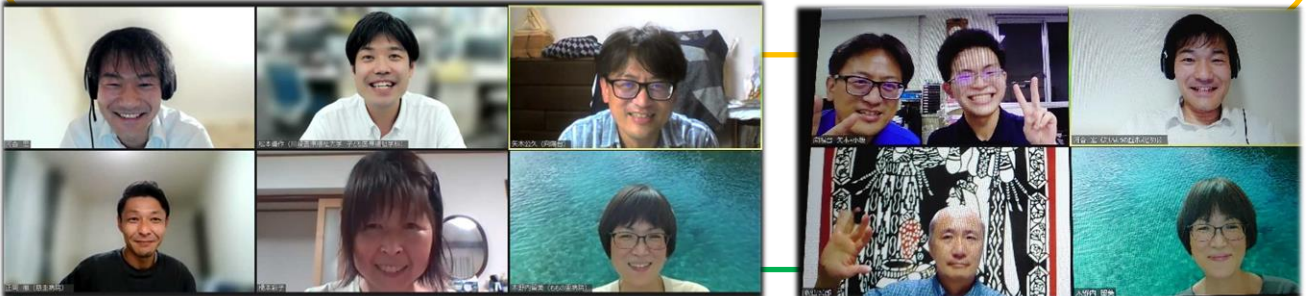
このたび第8回テーマ「聞き上手、語り上手でそれぞれの実践を振り返ろう。」に初めて参加させていただきました。今回まで座談会にとっても魅力を感じながらも『すごく敷居が高そうなお題だわ～』とパソコンの前に座り入室をためらっているうちにタイムリミット(!?)となってしまう結局、参加させていただくことができていませんでした。

今回、6名の参加で『ざっくばらんに話しましょう!』ということになり、6月とは思えない猛暑日の中で健康管理のため何かおこなっていることに始まりました。

中盤は、病院・施設の精神保健福祉士、またコロナ禍に病院・施設に実習の受け入れを依頼する大学が、精神保健福祉士の実習生をどのような思いで育てているのかというテーマで盛り上がりました。最終的に、対象者が精神障がい者の方であっても、子どもであっても、高齢者の方であっても人と関わるのが大好きであり本当にやりたいという熱意が大切であり、対象者の方の日々の変化とともに自分自身も成長していくのが励みになっているのです(笑)

最後に、ご本人とご家族の間で板挟みになった経験についてトークがなされました。『家族って何?』と自問しながらも、ご本人の支援者である家族を支援するのも精神保健福祉士の役割であり、『家族の思いを聴く』ことも大切な役割なのでは…とあらためて感じました。

今回、初めて参加させていただき時間の経過を忘れさせていただきました。ありがとうございます。
川崎医療福祉大学 非常勤講師 橋本 彩子



つながるカフェには今回初めて参加させていただきました。

私自身新卒でとても緊張していたのですが、気が付けば一時間が経過していた。そのような楽しい時間でした。私自身まだまだ新人で学ぶことや悩むことが多い中で、先輩方がどのような新卒時代を過ごしたのか質問させていただきました。「精神保健福祉士という国家資格として成り立つ前の話」と「国家資格になってから変わったと感じたこと」であったり、「精神保健福祉士としての職場でのあり方」であったり、「なぜ精神保健福祉士を目指したいと思ったのか」等の話題が展開される中で「今の初心を忘れずに頑張っていきたいと思えるような勇気」を先輩方からいただけただけでなく、学びの多い時間であったようにも感じました。

実際にまだまだ収まる気配のないコロナ禍で他職場の MHSW とかわかる機会が少ないので、積極的な参加を通してつながりを増やしつつ、現状を乗り越えていきたいなと感じています。

今回、一緒に参加してくださった皆様、充実した時間をありがとうございました。

向陽台病院 小坂直也

《話題提供 強度行動障害の現状について》

強度行動障害とは、混乱や不安を感じていても言葉では上手く表現出来ず、直接的な他害(噛み付き、頭突き等)や、間接的な他害(睡眠の乱れ、こだわり等)、自傷行為として表現される状態をいいます。そのため、特別に配慮された支援が必要となります。

2016年に発生した相模原障害者施設殺傷事件は、加害者の強度行動障害を含む重度障害者に対する間違った認識が引き起こした悲慘な事件でした。また、事件のあった入所施設でも「虐待の疑いが極めて強い行為」が確認されており、これらも事件の一因であるとされています。今年7月には、強度行動障害者支援を行う福岡県のNPO法人が、身体拘束や暴行などの不適切な支援を行っていたとして、代表理事らが逮捕される事件がありました。

このように、間違った認識や支援により命や人権、本人の意思が軽んじられることは決してあってはいけません。しかし、「すぎる思い」で施設等に預けざるを得なかった家族の想いに対応できない地域の体制は脆弱であり、早急に解決すべき課題ともいえます。

2019年に「岡山県における強度行動障害に関する実態調査」が実施されました。県内の強度行動障害のある人は388人おり、うち238人が入所施設もしくは精神科病院での生活を余儀なくされています。そのうち精神科病院入院中の人は15%であり、少なくともその53%が1年以上の入院が続いています。入院継続の理由としては、「自宅で本人と家族が共に生活することが困難(75%)」であり、地域の受け皿となるべく退院先が見つからない社会的入院です。また、グループホームや日中活動等の障害福祉サービスを提供している現場でも、生活環境の問題や専門的知識に基づいた支援の難しさから本人に混乱が生じ、精神科病院へ対応を委ねており、このことも地域移行への見通しが立たず社会的入院となっている要因でもあります。このように強度行動障害の人の地域移行は大きな課題であり、精神保健福祉士をはじめとする多くの支援者が移行準備、体験利用、そして移行先の確保の支援に苦慮している現実が今も続いています。

国は、1993年より強度行動障害特別処遇事業として個別プログラムによる支援事業が始まりました。以後、加算など様々な制度が導入され、2013年からは強度行動障害者に対応する専門的な人材の育成と研修体系の整備を目的に「強度行動障害支援者養成研修」が行われています。しかし、加算配置的な意味合いが強く、地域での積極的な受入れ拡大とまでには至っていません。岡山県は、2019年の実態調査を受け、2022年から医療、福祉、教育等の関係機関相互の連携の強化や支援の充実など、専門的な協議・検討等を行うことを目的に岡山県自立支援協議会内に強度行動障害支援部会を設置しました。現在、関連機関との連携や在宅、病院、施設の詳しい実態把握、支援者の対応力向上と負担軽減のためのフォローアップについて検討が始まっています。岡山市においても第6期障害福祉計画および第2期障害児福祉計画に強度行動障害の特性理解と基本的スキル獲得を課題として盛り込み、関係機関の相互連携が始まりました。障害福祉サービス事業所協力のもと障害者基幹相談支援センター、障害者自立支援協議会が連携し、発達障害者支援センター(ひかりんく)によるコンサルテーションを通じてモデルケースに取り組み、対応力の向上と地域の受け皿づくりを目指しています。このように県内では強度行動障害の人への理解と適切な関わりによる支援の拡大を目指す取り組みは広がっています。12月には「2022年度成人発達障害支援学会 岡山大会」が開催され、強度行動障害の課題解決に向けた意見交換がなされる予定です。今後、医療・福祉・教育等が垣根を越えた柔軟な支援体制の整備が必要であり、医療機関や地域の精神保健福祉士には、より一層の役割が求められています。それは238人の地域移行と地域定着、家族の安心、そして何よりも388人の強度行動障害の人が喜び、安心して暮らせる社会の実現へとつながるのではないのでしょうか。

副会長 中山 真

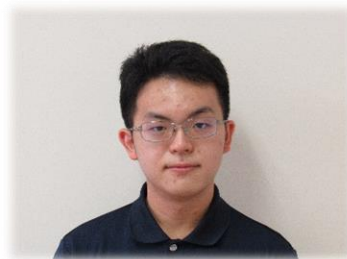


新入会員の紹介コーナー



新入会員の紹介コーナーへの協力依頼に、快く応じてくださった3名の方々のご紹介です。今後ともよろしくお願い致します！

- 【名前】 小坂 直也（こさか なおや）
【所属】 医療法人社団 井口会 向陽台病院 相談室
【趣味】 カラオケ プリザーブドフラワー
【目標】 寄り添いその人らしさを大切にできる
精神保健福祉士としての基盤をしっかりと
作り、精神保健福祉士としてのセンスを磨きます！
【一言】 体力と根気には自信があります。ご指導のほどよろしくお願いします。



- 【名前】 田邊 実夢（たなべ みゆ）
【所属】 林道倫精神科神経科病院
【趣味】 音楽を聴くこと、YouTube をみること、（コロナ前は）
ライブに行くこと
【目標】 その人が幸せだと感じられる生き方を一緒に探し
実現すること、この人と話して、相談してよかったと
思ってもらえるソーシャルワーカーになること。
【一言】 入職したてで分からないことだらけですが、たくさんの
ことを学びながら成長していきたいです。



- 【名前】 森谷 扶公代（もりたに ふきよ）
【所属】 弁護士法人 岡山パブリック法律事務所 倉敷支所
【趣味】 ネコとモフモフすること
【目標】 生涯現役が目標です！
【一言】 成年後見の仕事始めて4年目になります。
精神疾患を抱えている方の支援も多く、
日々模索と自省を繰り返しながら伴走型支援を
目指しています。まだまだ未熟者ですので、
どうぞ宜しくお願いいたします。





《理事会の報告》

開催日時: 令和4年7月22日(金) 19:00~21:00

開催場所: オンライン

出席者: 河合・中山・横山・正岡・矢木・奥田・牧野・堀家・春名・黒岡・谷口・白川(敬称略)

協議内容(概要)

- 研修について(全体・基礎コース・総会研修)
- 自殺防止対策事業について
- 法人化ワーキンググループについて
- 日本協会の動き
- 災害関連
- つながるカフェについて
- 会員情報について: 入会・退会希望者・会員情報の変更・会費納入
- 派遣・推薦・後援・周知・他機関からの協力依頼について



《事務局からのお知らせ》

- ①会員情報(氏名・所属先・郵送先など)の変更がある方は、岡山県精神保健福祉士協会ホームページの「入退会届、変更届について」から変更届をダウンロードし、早めに事務局へFAX・郵送・持参してください。ダウンロードが難しい方は事務局にご相談ください。電話のみでの変更は受け付けておりませんので、変更届の提出をお願いします。
なお、退職・異動などで連絡が届かない状況になっている方もおられます。変更・退会届が提出できていないと思われる方がおられる場合は、把握されている方からの連絡もお受けしておりますので、ご協力をお願いします。

ホームページ: <https://psw-okayama.wixsite.com/psw01>
(会員ページ パスワード: okym_psw)

- ②令和4年度の県協会会費(年会費2,000円)の振り込みについて、早めの入金をお願いします。なお、会員が複数おられる機関は、払込書に納入者全員の氏名をフルネームで記載していただきますようお願いいたします。

口座記号番号: 01360-2-102523(ゆうちょ銀行)
加入者名: 岡山県精神保健福祉士協会(オカヤマケンセイシンホケンフクシキョウカイ)

- ③令和3年度の県協会会費の納入ができていない方は、同じく上記口座への振り込みをよろしくをお願いします。未納の心配がある方は事前に事務局にお問い合わせいただけると助かります。2年間の会費滞納がありますと、本人の意思とは関係なく退会となりますので、ご注意ください。
- ④新入職員など入会を考えておられる方がおられましたら、入会届と併せて、メーリングリストへの登録も行うよう声掛けをお願いします。なお、メーリングリスト登録についてもホームページに記載していますのでご確認ください。

岡山県精神保健福祉士協会 事務局

〒700-0915 岡山県岡山市北区鹿田本町3-16

岡山県精神科医療センター 相談室内 (担当: 牧野・黒岡・谷口・白川)

TEL(086)225-3821 / FAX(086)234-2639

E-mail: ok-mhsw@yahoo.co.jp

